

日野町議会との合同研修会 報告書

グループ名	グループ 1				
進 行 係	深澤 巧 (養父市)	記 録 係	川東昭男 (日野町)	発 表 係	野矢貴之 (日野町)
グループ議員名	日野町: 松田洋子、川東昭男、野矢貴之 養父市: 西垣 司、井戸弘美、深澤 巧、田路之雄				
テ ー マ	議員のなり手不足改善に向けて		報 告 者	深澤 巧	

グループ 1

問 題 点	解 決 策	意 見
- 報酬が少ない！ - やりたい人が少ない！ - 議会の信頼度が足りない！ - 女性の意見が言いにくい！ 「議員」の印象が悪い！ - 地域の役のなり手不足と同じ状況とも言える！ - 旧のくみの影響も！ - 議員定数と減り流れ！	- 政策提言が来る！ - 当事者意識を持つ／増やす！ モニター - 若手議員の頑張りを！ (日野町人) - 若者がうらやまされるよう議員！ にふく - 子どもの目標にしたいと思える！ (議員が居ると) めやす	- 議員は、議会だけの問題ではない！ - 之を改善が大事！ - 議会の存在感を示す！ - 議会からの発信を更に増やす！

【出された意見・アイデア】

【現状】

(日野町) 14 人の定数で、過去に無投票になったこともある。今期の改選では法定投票数に満たない候補者が 3 名出て、当選者は 13 名となり 1 名の欠員となっている。

(養父市) 合併後の 6 回の選挙で無投票はない。今期の改選時は定数 16 名に対し 21 名の立候補があり、女性議員も 3 名になった。

【なり手不足の要因】

(養父市) 議員に魅力がないのは報酬額の少なさが一番である。仕事を辞めてまでできる報酬でない。議会は定年された方の終身雇用の方とみられている。印象が悪い。

(日野町) 報酬の少なさのせいで特定の人しか立候補できない。議員の属性が偏っている。議会は何をしているということが住民に理解されていない。

【なり手確保の方策】

(養父市) 議会と市民の壁を取り払う必要がある。議会モニター制度の活用は有効では。

(日野町) 今期、若手議員が 4 名になった。若い層に町政への当事者意識を持ってもらう活動を行いたい。

今期の議会から、若者や公民館の関係者などと幅広く意見交換を行っている。前向きな議論ができるようになった。

(養父市) 若い議員が先導することで、日野町議会は変わってきている、ということになっていないか。

議員の個々の能力を向上させ、期待される議員像、存在感のある議会を目指さなければならない。

(日野町) その役割を自分達自身が担っていると思っている。若い議員はこどもがいる世代にも、その姿を見せることができる。PTAの当事者などとも直接接することが出来る。議員が生き生きと活動していたら、関心を持ってくれる若い層も増える。

【グループ1 まとめ】

人口減少社会の中で、地方議会での議員なり手不足はあらゆる地域の担い手不足に通じる課題でもある。

小規模議会での報酬の少なさは、なり手不足の要因の第一とされている。一方で「議員報酬は高い」という声も根強い。その中で、日野町議会では議員報酬のあり方などを全国町村議会レベルで働きかけ、自らも活動に見合う報酬改定を27年ぶりに実現させた。引き続き報酬審議会に報酬額のアップを要求するという。

養父市議会では、自ら定めるとしている定数と報酬の決定に、第三者性を担保する議長の付属機関的な審議会の設置などの仕組みを検討していきたい。

これまでにない魅力ある議会づくりに努力することが肝要である。議会モニター制度の活用など議会改革を推進し、個々の議員の日常的な地域活動、効果的な一般質問、積極的な委員会活動などで住民の共感を得る。それら議会の活躍をわかりやすく発信する努力を怠ってはならない。「報酬は割に合わないという言葉はタブー」「多少の自己犠牲を超える議員としてのやりがいを求めていくことが必要」との意見もあった。

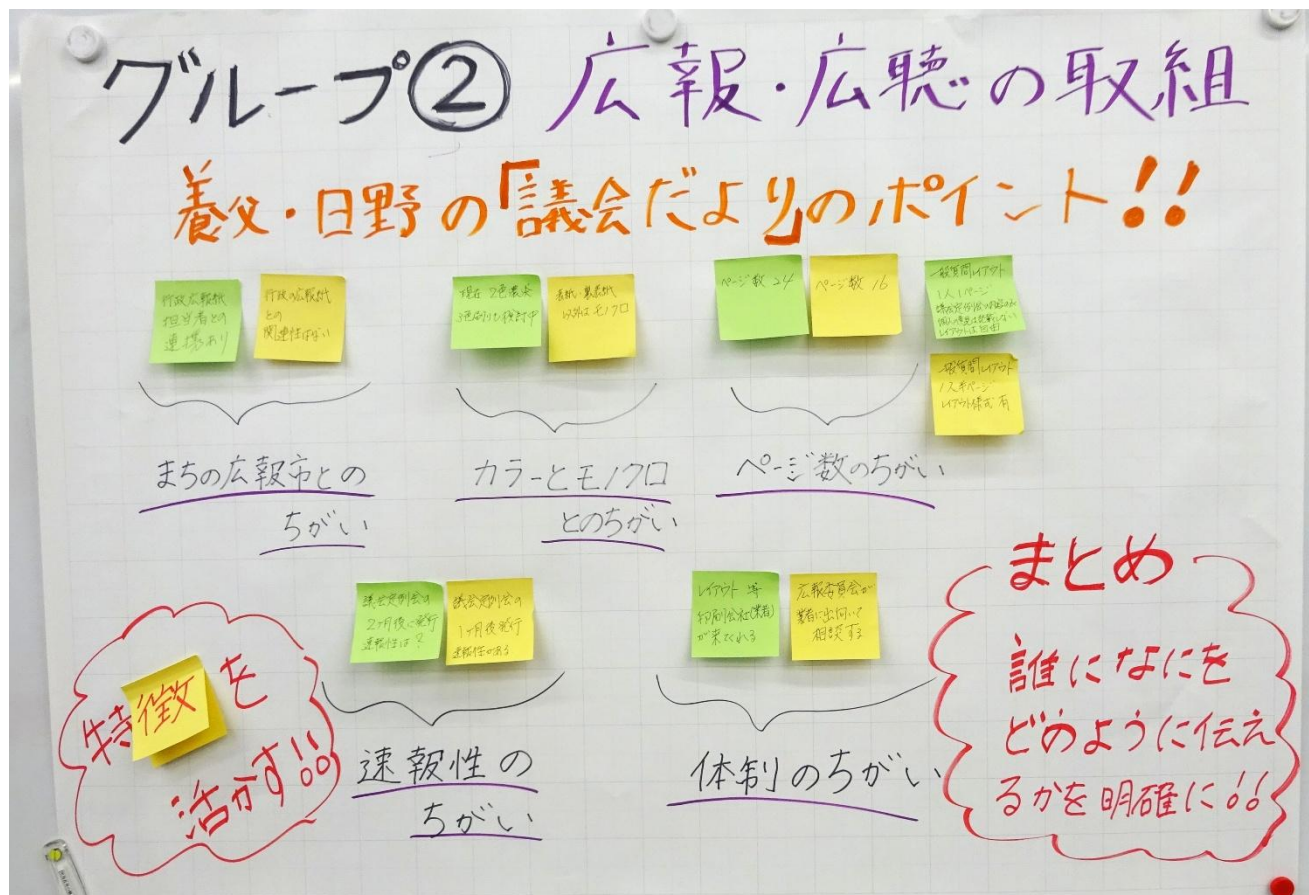
若手議員をはじめ議員の頑張りを見せ、生き生きと活動すること。その一つの例として日野町で取り組み、養父市でも試みようとする小学生への主権者教育の取組は期待できる。このような共通の取組は、今後とも情報交換を行い成果を共に上げていきたい。

最後に、町民、市民に議会の存在感、議会改革の地道な取組、議会・議員の政策提言の成果をしっかりと示すことが、議員の担い手を開拓することにつながる大事な要素である。

日野町議会との合同研修会 報告書

グループ名	グループ2				
進 行 係	福永晃仁（日野町）	記 録 係	高橋展子（養父市）	発 表 係	西垣勲一（養父市）
グループ議員名	日野町：福永晃仁、柚木記久雄、加藤和幸 養父市：西垣勲一、高橋展子、北山 愛、前田 稔				
テ ー マ	広報・広聴の取組		報 告 者	福永晃仁	

グループ2



【出された意見・アイデア】

広報広聴全般がテーマであったが今回は両市町の「議会だより」について意見交換を行った。

- ①市町行政の広報紙との違い→養父：行政広報紙との関連性はあまり意識していない
日野：行政広報紙の表紙や記事内容と重ならないように調整
- ②印刷時の配色→養父：表紙、裏表紙はカラー、中面はモノクロ刷り
日野：表紙、裏表紙はカラー、中面はマゼンタ中心の2色刷り、今後は3色を検討中
- ③構成ページ数→養父：16ページ構成、一般質問は1人半ページで構成の自由度は狭い
日野：24ページ構成、一般質問は1人1ページで構成の自由度は広い
- ④速報性→養父：定例会の約1カ月後に発行、住民への最新の情報提供を優先
日野：定例会議の約2カ月後に発行、速報性よりも内容の精度を優先
- ⑤編集体制→養父：広報委員会（委員長）が編集会議後に直接業者に出向いて調整
日野：基本的には編集会議内容や委員の意思を把握し、事務局が業者と調整

【グループ2 まとめ】

各議員が普段の広報紙づくりを通じて感じていることの意見交換から始まった。養父・日野それぞれに違

いがあり、どちらが良い悪いということではなく、お互いの強みを確認しあった。速報性を重視してより早く議会内での議論内容や結果が住民に伝わるように意識して編集しているのが養父市議会の方針。一方、町行政の広報紙との住み分けを意識し、速報性よりも中身の精度に重きを置いている日野町議会。

全国でコンクール上位に入ってくる議会だよりはコンセプトにブレがなく方針がしっかりしている。このことから「誰に、何を、どのように伝えたいのかを明確にする」「各市町村の特長・特徴を活かす」広報紙づくりが結果として住民生活に馴染み、意識してもらえる議会だよりになるのだということを再確認することができた時間となった。

今回はプログラムと時間の関係で「議会だより」のみの議論となったが、次回は広報・広聴全般をイメージして意見交換できると多くのアイデアが出るだろうと感じた可能性が広がるグループワークの時間となった。

日野町議会との合同研修会 報告書

グループ名	グループ3				
進 行 係	浄慶耕造（養父市）	記 録 係	錦戸由佳（日野町）	発 表 係	谷口智哉（日野町）
グループ議員名	日野町： 錦戸由佳、谷口智哉、高橋源三郎 養父市： 藤原芳巳、石本 毅、浄慶耕造、津崎和男				
テ ー マ	議会の政策提言、政策評価・事業評価の取組		報 告 者	浄慶 耕造	

グループ3

(3) 議会の政策提言・政策評価・事業評価の取組み

〈現状〉

- 政策提言に向けて勉強会あり
- 委員会提言、チェックを実施
- 人口減少・若者流出が大きな課題
- 子育て世代の定住がテーマ
- 地域ごとの格差あり（中心部と周辺）

〈課題〉

- 政策が実際に効果があるのが見えにくい
- 提言に終わりにばかり
- 住民の声十分に反映できていない
- 限られた財源の中で選択が難しい
- 地域ごとの実情の違いへの対応不足

〈解決策〉 出さる見

- 住民の声を聞いて政策に反映
- 若い世代（子育て）をターゲットにする
- 現行政策の「穴」をチェックする
- 人口を増やす施策を続け、進める
- 議員同士で議論、勉強を重ねる

人口減少 **若者定住**
子育て環境 **政策の効果検証**
住民の声

課題を出すだけでなく、良さを活かしながら
 政策提言し、効果検証を行うことが必要!!

【出された意見・アイデア】

- ・ 系統的な研修会による議員力の向上を目指す。研修会では議員同士の議論を深めることで発言力を高め、議員として成長を図る。（日野町）
- ・ 住民の声を聴きながら政策提言としてまとめる作業を通じて、議会全体としての力量をつけていく。政策が自治体間のサービス競争にならないよう、住民の自発的な動きを支援すると同時に地域社会の変革を促す問題提起も含める。（日野町・養父市）
- ・ 集落消滅への危機感の共有を議員発議の政策条例まで仕上げていく過程で、住民の中に入って意見交換を繰り返す作業によって議員の感度と力量を高める。（養父市）

【グループ3 まとめ】

- ・ 議員ならではの視点から住民の声を反映した政策提言を目指す。行政との「協働と緊張関係」が大事である。とくに若手職員を巻き込んだ勉強会は大いに追求すべきである。一方で議会（議員）と行政の方向の対立も大切にしなければならない。例えば緊縮財政と将来への投資の課題など。議会と行政の緊張関係は、住民の「知る権利」に大いに貢献する。

- ・ 議会（議員）からの政策立案が議員間の人間関係を活性化させ、行政との、いい意味での緊張感を作り出していく。そのことが住民の議会への関心（おもしろさ）を引き起こすことになる。

日野町議会との合同研修会 報告書

グループ名	グループ 4				
進 行 係	山本秀喜 (日野町)	記 録 係	谷垣 満 (養父市)	発 表 係	塚本正彦 (養父市)
グループ議員名	日野町: 山本秀喜、中西佳子、西澤正治、杉浦和人 養父市: 塚本正彦、川瀬 稔、谷垣 満				
テ ー マ	議会基本条例とこれからの地方議会		報 告 者	山本秀喜 (日野町)	

グループ 4

グループ④ 議会基本条例とこれからの地方議会

基本条例の重要なことは...

① 活用する
(反問権、資料請求、必要なことは全て書いてある)

② 理解・共有・承継する
(改定により熱意や理解が湧く。任期中に理解共有の機会を)

③ 常に見直す
(時代変化に対応 → 議会改革の推進)
(期間を定めた改定条文も)

この時代は...
・住民が直接情報を得られる
↳ 情報伝達、ご用聞きでは不十分
・答えのない時代
↳ 共に考えて変えていく役割
・行政に言っても変わらない... 言えない
↳ 議会がその役割を (成果、結果、フィードバック 必要)

そこで必要とされる

議会力 (発言、課題認識、質問力、議員の視点)

・議員力、議会力の向上は全てにつながる
・議会と住民は同じ目線で一緒に考え話しあえる
関係性の構築も大切

【出された意見・アイデア】

- 1) 議会基本条例：養父市・平成 22 年 3 月制定 日野町・平成 23 年 3 月制定、両市町とも制定後、幾度となく改定を進めてきた。これらの改定は議会改革の道なりとされる。議会が進める全てのことが書いてあるので、常日頃から、最大限活用していくことが大事だ。
- 2) 取り残されてきた地方議会：地域住民にとって議会（議員）の役割が変わってきた。情報は何処でも入手できるし、何を言っても変わらないのであれば議会の存在が危うい。住民の声と共に議員の視点も取り入れ、課題解決に向けて考案していける議員力、議会力の向上が求められる。

【グループ 4 まとめ】

- 1) 常に議会基本条例を確認、理解し、見直しを進めることが重要である。また、改選後は特に注意を要し、次世代に的確に承継していくことが求められる。
- 2) これからの地方議会は、地域住民に必要とされる「議員力・議会力」を持ち備えなければならない。住民と共に常に対話できる関係性を保ち、地域課題を認識し、答えを住民と共に考え導き出していく。そして、政策・施策提言し、結果、成果を出すことが求められる。そのために議員の発言力、質問力が問われてくる。
学びが大切だ。